

白馬だより

泉州労山 鈴木 均

3週連続の敗退。

2月は天候に恵まれず、山行は延期。3月に入って週末は比較的安定した予報だったので、2月第四日曜日から3月末までは毎週山に入った。

まず、2月26日は、鹿島槍スキー場から黒沢尾根。ゲレンデリフトのトップから五竜遠見の小遠見山に続く長い尾根で極端なアップダウンはない。県山岳総合センターは、毎年雪洞を掘って講習会もやる所だ。途中まで、スノーシューかわかんで行って引き返す。外国人パーティはBC、日本人若者パーティはスノボで五竜スキー場をめざしていた。

3月4日、県の防災ヘリが墜落して9名全員が亡くなった日である。これまた野麦峠スキー場リフトのトップから鉢盛山をめざした。北アルプスの前山ではあるが、高度は2447mもある、文字通り鉢をひっくり返したようななずんぐりした山である。夏道は別にあるが、積雪期のみ可能なルートを行く。樹木の合間から乗鞍・御岳が垣間見える。しかし、強風と予想以上の長いルートで時間不足のまま撤退した。ヘリ墜落の原因はいまも調査中であり、山域も異なるが松本近辺の山々はかなり強風だったことは確かだ。

3月11～12日、横岳の石尊稜をめざした。赤岳鉱泉に素泊まりしたが3連休ということで小屋は超満員。11日に偵察しワンピッチのフィックスロープを張った。12日3時半起きでもスタートは5時を過ぎてしまった。既に2パーティが登攀しつつあった。予想以上の急登で雪も草付きも状態がよくない。3ピッチで登攀をこれ以上登ることは時間的に厳しいと判断し石尊厚峰まで抜けることができなかった。右手には中山尾根を登るパーティの姿が見えていた。(ここは数年前の無雪期に登った)

3月19日、家を早朝4時に出て上州武尊山をめざした。川場スキー場に近づけば、これまた天気予報に反して雪が降り出した。リフト始発が8時で、チケット売り場はまだごった返しはしていなかったが、それでも都心から2時間ということでファミリーや若者ボーダーの姿が多かった。ゲレンデを見ると風もけっこう吹いていた。

このルートもスキー場が営業しているときだから登ることができるので、登山者は多かった。スタート時は視界は20m程度あったが、すすむにつれて風が強くなり視界も10mくらいになってきた。降雪は多くはないのでトレースは消えることがないと思われたが、風で消されるかもしれないと思った。剣が峰手前で引き返した。

3月下旬になっても白馬のゲレンデはたっぷりの雪だ。今朝も家の周りは数センチ積もった。庭は除雪したので石だらけになっているが、横はまだ雪の壁のまま。東京では桜が咲いたという報道があるが、福寿草やカタクリが咲く白馬の春は、まだまだ先だ。

3/24 記



石尊稜下部

